

あさくらよしかげ
朝倉義景が厚礼を

尽くした感状を得た男、

だいあんじまたしろう
大安寺又四郎

戦 功をあげた武士を賞し、その戦功を証明する文書である感状。現代に伝わる朝倉義景の感状全50通の内、義景の署名と花押の両方がある原物史料がただ一通存在します。それは、天文24（1555）年9月27日の加賀粟津口（現在の小松市粟津町）における一向一揆戦で戦功をあげた大安寺又四郎への感状（以下「本文書」といいます。）です。

天文24（1555）年の朝倉軍の加賀出兵時に発給された義景の感状は、本文書のほかに14通が確認されていますが、同年9月8日に総大将朝倉宗滴（79歳）が亡くなった後も9月末まで、加賀で戦闘が続いていたことを裏付ける唯一の確かな史料

です。朝倉氏の軍事力の要、宗滴を失つてなお、若い義景（22歳）は戦いを継続させていたのです。

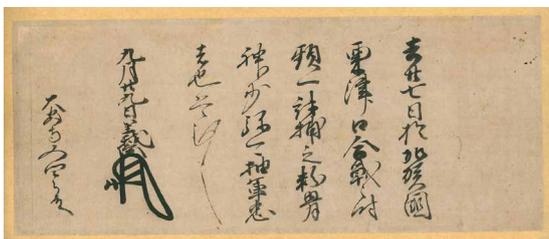
感状には、「加賀国粟津口において合戦の時、敵方の首を一つ討ち取つた骨を粉にするようなあなたの働きぶりは神妙である（非常に素晴らしい）。（中略）恐れながら謹んで申し上げる」と記されています。本文書の中で義景は又四郎に対し「恐々謹言」の結びの言葉を用いており、宛名が書かれる位置も高いなど、書簡の礼儀作法上かなりの厚礼を尽くしています。

では、義景がそれほどまでに心を尽くした大安寺又四郎とはどのような人物だったのでしょうか。

敦賀市にある善妙寺が所蔵する永禄元（1558）年の「善妙寺寺領目録」には、隣接する地権者として「高瀬之大安寺殿」との記載があり、又四郎は高瀬（現在の越前市高瀬）を本拠としながら敦賀周辺にも土地を所領していたことがわかります。これを裏付けるように、江戸前期に書かれた『府中寺社堂由緒書』には、洞源寺の所在地（越前市中央一丁目）への移転に際し尽力した人物として「大安寺又四郎元勝」の名前が見えます。又四郎は現在の越前市市街地



大安寺又四郎元勝の位牌
(洞源寺蔵 画像提供：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)



朝倉義景感状
(福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館蔵)

において一定程度の影響力を有していたことから、この移転に一役買っただと考えられます。さらに、洞源寺に伝わる位牌には「大安寺殿憲翁元勝大居士」と戒名が刻まれています。これらにより彼の名は、大安寺又四郎「元勝」だったということがわかりました。

合戦が行われた記録を示す貴重な史料、感状。これは、朝倉氏を支えた家臣一人一人を紐解く手掛かりとしても重要なものなのです。

関連史料・ゆかりの地

だいあんじまたしろう
大安寺又四郎
ゆかりの洞源寺



(画像提供：福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館)

まえだといえ
前田利家の菩提寺である宝門寺（越前市高瀬）の末寺、洞源寺。天正8（1580）年、陶の谷（丹生郡越前町、旧宮崎村域）から現在地へ移転しました。

【住所】越前市中央1丁目2-1（JR武生駅より徒歩15分）

参考資料等

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『一乗谷朝倉氏遺跡資料館紀要 2015』
石川美咲「手紙が語る歴史秘話 Vol.12 朝倉義景から大安寺又四郎へ一向一揆での戦功を語る手紙」『月刊江戸楽』エー・アール・ティ株式会社
「第2回特別公開展『今に受け継がれた朝倉氏の記憶』解説シート」福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館

執筆・協力

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 学芸員 石川美咲